

# 音楽科 学習指導案

- I 題材** 日本と世界の歌  
教材 子もり歌 日本古謡 陽旋法 陰旋法 4分の4拍子  
世界の国々の歌（ヨーデル、ホーミー、ゴスペル、ケチャ）  
日本や世界の国々の子もり歌（五木の子守歌、モーツァルトの子守歌他）

## II 考察

### 1 題材観

#### (1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

##### ③学びに向かう力・人間性等

音楽活動を楽しみ、日本や世界の歌を愛好し、音楽に親しむ態度

##### ①知識・技能

曲想と音楽の構造などの関わりについての理解や、表したい音楽表現をするために必要な歌唱の技能

##### ②思考力・判断力・表現力等

旋律や音階などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考える力

#### (2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現（1）ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。  
イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。  
B鑑賞（1）ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。  
〔共通事項〕（要素）旋律、拍、速度、音階、強弱、リズム

#### (3) 本題材や教材の価値

本題材では、日本や世界の国々の歌の特徴を聴き取り、味わって聴いたり曲に合った歌い方を工夫して歌唱したりする学習をする。その価値は、以下のとおりである。

我が国や諸外国には、人々によって昔から伝えられてきた様々な音楽がある。その中でも、歌は人々の生活や文化と深く関わりながら伝承・発展してきている。諸外国に伝わる歌を聴いたり真似をして歌ったりすることは、日本とは違った音楽文化やその多様性、特有の美しさを新たに知り、親しむことになり、日本の音楽への理解を深めて大切にする心情や、互いの文化を尊重する態度をより一層育むことができる。

子守歌は、「子どもを寝かしつける」という目的や、生活との関わりのある音楽、子どもへの

優しい愛情を込めて歌うという点で世界共通であり、時代や国を越えても変わらない音楽のよさに触れることができる。「子もり歌」は、日本古来の旋律が特徴の眠らせうたである。参勤交代で全国に広まったと言われており、全国的にはほぼ同じ旋律で歌われているが、地域によって音階や歌詞に多少の違いがある。陽旋法と陰旋法の二つの音階の違いと曲想の関わりは大きい。同じ歌詞の歌でも音階によって曲想が変わることや、日本には西洋と同じように複数の音階が存在することを知ることができ、日本の音階への理解を深めることができる。

世界の国々の歌（ヨーデル、ホーミー、ゴスペル、ケチャ）は、旋律の特徴や歌い方がそれぞれ異なる諸外国の歌である。その地域の風土や生活の違いと、そこに根付く音楽との関わりを考えることができ、世界の音楽へ興味関心を高めることができる。歌と伝統的な伴奏楽器が合わさることで、音楽により一層広がりが見られることを味わうことができる。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「世界の音楽」で、世界のいろいろな音楽の響きや特徴を感じ取り、曲に合った歌い方や奏法を工夫しながら、世界の音楽に親しむ学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちはこれまでに、4年「きょう土や日本の音楽」において、郷土や日本の各地に伝承されている曲の特徴を聴き取りながら、聴いたり、表現したりする学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- (1) 和楽器の奏法や日本特有の歌い方に気を付けて表現してきている。このような子どもたちが、日本や世界の国々に伝承されてきている歌の特徴を理解し、曲に合った歌い方で歌唱できるように、黒板の拡大歌詞を見ながら、4小節のまとまりごとに陽旋法と陰旋法とを歌い分ける活動を設定する。
- (2) 郷土や日本の各地に伝承されている曲の特徴を聴き取り、曲に合った歌い方やリズムの組み合わせを工夫してきている。このような子どもたちが、日本や世界の国々に伝承されてきている歌の特徴を聴き取り、よさや面白さを味わって聴いたり、曲に合った歌い方を工夫したりできるように、曲に合わせて手拍子や指揮をして、拍やリズムを比較する活動を設定する。
- (3) 郷土や日本の各地に伝承されている曲に関心をもち、鑑賞や表現の学習に取り組もうとしてきている。このような子どもたちが、日本や世界の国々に伝承されてきている歌の特徴に関心をもち、聴いたり歌唱したりしようとするように、「子もり歌」や「世界の国々の歌」の旋律の動きに合わせて手を動かしながら比較鑑賞する活動を設定する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 2つの「子もり歌」を聴いたり歌ったりしながら、2つの子もり歌で音の違う部分と曲想とのつながりを見付けることを通して、日本の歌の音階を理解することができる。
- 2 準備 子もり歌の拡大歌詞 拡大譜 CD 学習プリント

3 展 開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子もり歌①」よりも「子もり歌②」の方が何となく悲しそうな気がするよ。でも何が違うのかよく分からないな。</li> </ul> <p>2 2つの「子もり歌」の曲想が異なる理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・僕と同じように友達も「子もり歌②」を寂しそうだと感じたのだな。2つとも歌詞が同じことは分かっていたけれど、リズムが同じことには気付かなかったな。</li> <li>・暗い感じの他にもきれいな感じと感じた子がいるんだな。</li> <li>・交互に歌っているとどっちがどっちか分からなくなってくるな。楽譜だとどうなっているのだろう。</li> <li>・歌詞の‘ねんね’の部分と‘ころりよ’の‘こ’と‘り’の部分に♭が付いているよ。全部で7つあるよ。</li> <li>・音で言うと‘ミ’と‘ラ’の2つの音に♭がついているのだな。♭が付いている方の音階は悲しくて暗い感じがする曲想なのだな。</li> <li>・どちらも同じ歌詞の歌だけど、音階によって明るい感じや暗い感じの曲想になるのだな。外国で言うと長調と短調のような音階が日本にもあるのだな。</li> <li>・世界にも日本と同じように明るい感じと暗い感じの曲想の子守歌はあるのかな。ヨーデルのような子守歌もあるのかもしれないな。楽しみだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○陽旋法の子もり歌（子もり歌①）と陰旋法の子もり歌（子もり歌②）の曲想が異なる理由を見付けるといふ本時の見通しをもてるように、2つの「子もり歌」を聴く時間を設定し、それぞれで感じた印象を問いかける。</li> <li>○曲想の違いを十分に味わえるように、2つの「子もり歌」を交互に聴き、感じ取ったことをペアで伝え合うよう促す。</li> <li>○曲想の違いを共有できるように、感じたことを発表する時間を設定し、音楽を形づくっている要素の種類ごとに分類して板書する。</li> <li>○2つの「子もり歌」の違いを体感できるように、黒板の拡大歌詞を見ながら、4小節のまとまりごとに陽旋法と陰旋法とを歌い分けるよう促す。</li> <li>○2つの「子もり歌」の違いに気付けるように、楽譜を見ながら歌い、音符が異なる部分に鉛筆で印を付けるよう促す。</li> <li>○音階の違いを全体で共有できるように、拡大楽譜で音符が違う部分を確認しながら、五線譜にまとめる。</li> <li>○日本の歌の音階について理解できるように、明るい感じと暗い感じの曲想の違いが生まれる理由を問いかける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">日本の歌の音階を知り、音階の違いによる曲想の違いについて記述している。</p> <p style="text-align: center;">&lt;表現・学習プリント（1）&gt;</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○次時の学習へ期待をもてるように、世界にはどのような子守歌があるか予想するよう促す。</li> </ul>

IV 指導と評価の計画（全4時間）

題材	日本と世界の歌				
目標	日本や世界の国々の歌について、それぞれの国の生活や文化と関連付けて味わって聴いたり、曲に合った歌い方を工夫して歌唱したりする。				
評価 規準	(1) 日本や世界の国々に伝承されてきている歌の特徴を理解し、曲に合った歌い方で歌唱している。 (2) 日本や世界の国々に伝承されてきている歌の特徴を聴き取り、よさや面白さを味わって聴いたり、曲に合った歌い方を工夫したりしている。 (3) 日本や世界の国々に伝承されてきている歌の特徴に関心を持ち、聴いたり歌唱したりしようとしている。				
教材	ア…【鑑】子もり歌 日本古謡 陽旋法 陰旋法 4分の4拍子 イ…【鑑】世界の国々の歌 ヨーデル（スイスなど） ホーミー（モンゴル） ゴスペル（アメリカ） ケチャ（インドネシア） ウ…【歌】子もり歌 日本古謡 陽旋法 陰旋法 4分の4拍子 エ…【鑑】日本や世界の国々の子もり歌 五木の子守歌（熊本県） 竹田の子守歌（京都地方） モーツァルトの子守歌（オーストリア） おやすみ（スロバキア）				
過程	時間	配分	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法（観点）>
つか か む	1	ア イ	○「子もり歌」,「世界の国々の歌」を聴いたり歌ったりして、『日本や世界の国々の歌にはどんな特徴があるのだろう』という学習のめあてをつかむ。	○日本や世界の国々に伝承されてきている歌の特徴に関心をもって聴けるように、「子もり歌」や「世界の国々の歌」の旋律の動きに合わせて手を動かしながら比較鑑賞する活動を設定する。	◇日本や世界の国々に伝承されてきている歌の、旋律や曲想について記述している。 <表現・学習プリント（3）>
	ふ か め る	1	ウ	<b>○「子もり歌」を歌ったり聴いたりする。（本時）</b>	○陽旋法と陰旋法の音階の違いによる曲想の違いに気付けるように、黒板の拡大歌詞を見ながら、4小節のまとまりごとに陽旋法と陰旋法とを歌い分ける活動を設定する。
1		エ	○「日本や世界の国々の子もり歌」を歌ったり聴いたりする。	○日本や世界の国々の子もり歌の、拍やリズムの違いに気付けるように、曲に合わせて手拍子や指揮をして、拍やリズムを比較する活動を設定する。	◇日本や世界の国々の子もり歌の拍やリズムの違いについて記述している。 <表現・学習プリント（2）>
ま と め る	1	ア	○「世界の国々の歌」を聴く。	○それぞれの国の歌の特徴に気付けるように、歌が歌われていた場面、声の出し方という観点を提示して鑑賞する活動を設定する。	◇日本や世界の国々に伝承されてきている歌の特徴の違いについて記述している。 <発表・学習プリント（1）> ◇世界の国々に伝承されてきている歌の特徴と曲想を結び付けて記述している。 <発表・学習プリント（2）>